

住宅の標準化と個別性

～日本のハウジングの系譜を辿る～

今回の講演会にお招きした菊池成朋氏は、1998年九州大学教授を経て2021年より九州大学名誉教授に就任されました。主に日本および海外の民家・集落、日本住居史やストック型ハウジング、また文化的景観などをテーマに研究をされており、社会が近代化していく過程での住宅の標準化における集合住宅のあり方についても研究をされています。

講演日時

2024年 12月4日(水) 14:00～16:00

福岡県中小企業振興センター 403会議室
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9-15

講演概要

近代以降のハウジングでは「標準化」が進められ、それによって生産効率とともに住宅水準の向上が図られてきた。一方で、画一化の要因になったと批判もなされている。この講演では、日本のハウジングにおける標準化の流れを辿り、その延長線上でこれからの住まいの行方を考える。

講師プロフィール

菊池 成朋 氏 (きくち しげとも)



九州大学名誉教授・特任研究者 NPO 法人 RAS 研究会理事長
東京大学工学部建築学科卒業，同大学院修了，東京大学助手，九州大学助教授を経て1998年九州大学教授。2021年より九州大学名誉教授。工学博士，一級建築士。主な研究テーマに、日本および海外の民家・集落，日本住居史，ストック型ハウジング，文化的景観など。

著書に『韓国現代住居学』、『砺波散居村における居住システムの分析』、『住まいを読む-現代日本住居論』、『都市理解のワークショップ』ほか。

社会活動として、佐賀市景観賞選考委員会委員長(2009～2012)、うきは市景観計画策定委員会委員長(2010)、福岡県美しいまちづくり建築賞選考委員会委員長(2014～2017)、柳川市名勝水郷柳河保存活用計画策定委員会委員長(2017～2018)、日本建築学会理事・九州支部長(2017～2019)、公益財団法人建築技術教育普及センター理事・九州支部長(2021～)、文化庁文化審議会専門委員(2022～)ほか



